

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着は終了しました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称ハナ)

ラーバは奥内沖で11月25日に1.7個体/m³見られました (図2)。

(2) サンカクフジツボ

付着直前のラーバは見られていません (図3)。

(3) マボヤ

ラーバは奥内沖で12月2日に2.5個体/m³、野辺地沖で11月22日に1.6個体/m³、11月30日に0.8個体/m³、久栗坂沖、川内沖で11月25日にそれぞれ3.3個体/m³、1.6個体/m³、12月3日にそれぞれ26.7個体/m³、0.8個体/m³ (図4)、卵は奥内沖で11月25日に26.7個/m³、12月2日に25.8個/m³、野辺地沖で11月22日に2.3個/m³、11月30日に1.6個/m³、久栗坂沖、川内沖で11月25日にそれぞれ0.6個/m³、7.8個/m³、12月3日にそれぞれ5.0個/m³、0.8個/m³見られました。

(4) キヌマトイガイ

ラーバは奥内沖で11月25日に0.8個体/m³、12月2日に3.3個体/m³、久栗坂沖で11月25日に1.7個体/m³、12月3日に久栗坂沖で1.1個体/m³、川内沖で3.9個体/m³、見られました。

(5) その他

アミクサの小枝は野辺地沖で11月22日に1.6個/m³、11月30日に2.3個/m³、11月25日に久栗坂沖で1.1個/m³、川内沖で2.3個/m³見られましたが、オベリア類のクラゲは見られていません。

2 今後の見込み

現在の陸奥湾の中層水温は10~14℃台です。ユウレイボヤは、例年10~12月にラーバが出現しますが、奥内沖の累積ラーバ数が5.9個体/m³に増加しています。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバの出現数がさらに増加する可能性があるので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているの、施設を沈めすぎないようにしましょう。

サンカクフジツボのラーバは見られていないので、付着は終了したと思われます。

マボヤのラーバや卵が増加しているの、今後付着が進むものと考えられます。

キヌマトイガイのラーバの出現が昨年と同じく早いことから、早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類の付着は年明けになるものと思われます。

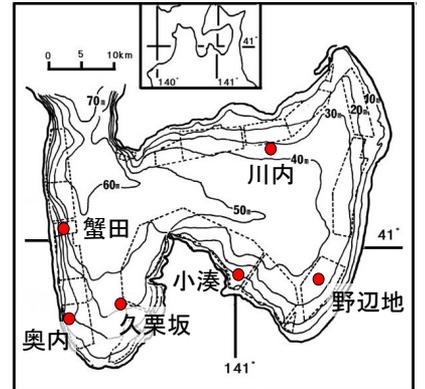


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位: 個体/m ³									
		ユウレイボヤ	サラボヤ	サンカクフジツボ	マボヤ	キヌマトイガイ	ムササギイ	オベリア類	アミクサ		
奥内沖	R2.11.25	1.7	0.0	0.0	0.0	26.7	0.8	6.7	0.0	0.0	
	R2.12.2	0.0	0.0	-	2.5	25.8	3.3	6.7	0.0	0.0	
久栗坂沖	R2.11.25	0.0	0.0	0.0	3.3	0.6	1.7	52.8	0.0	1.1	
	R2.12.3	0.0	0.0	-	26.7	5.0	1.1	6.7	0.0	0.0	
野辺地沖	R2.11.22	0.0	0.8	0.0	1.6	2.3	0.0	46.9	0.0	1.6	
	R2.11.30	0.0	0.0	0.0	0.8	1.6	0.0	18.0	0.0	2.3	
川内沖	R2.11.25	0.0	0.0	0.0	1.6	7.8	0.0	85.9	0.0	2.3	
	R2.12.3	0.0	0.0	-	0.8	0.8	3.9	12.5	0.0	0.0	

※久栗坂・川内沖は実験漁場内、-は調査終了

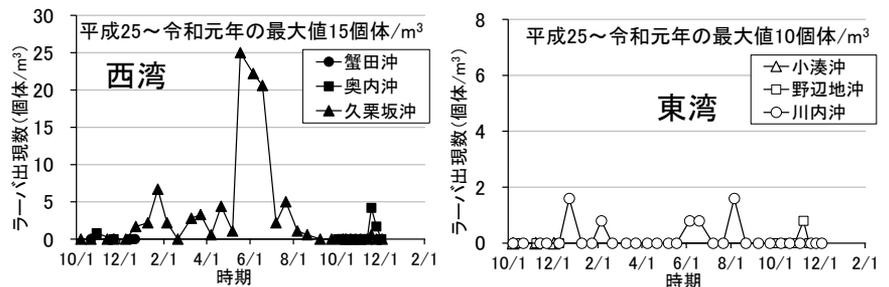


図2 ヲレイボヤラーバ出現数の推移 (令和元年10月~令和2年12月)

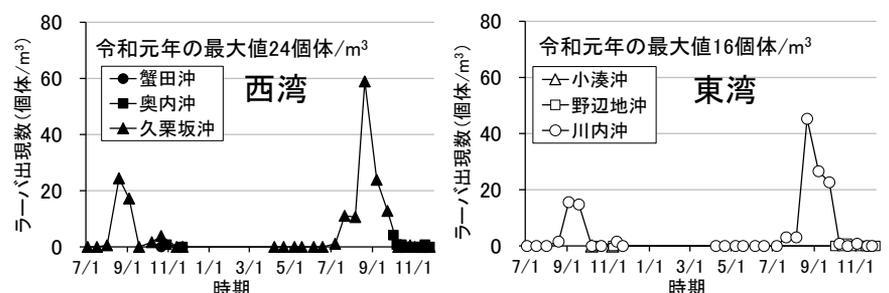


図3 サカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和元年7月~令和2年11月)

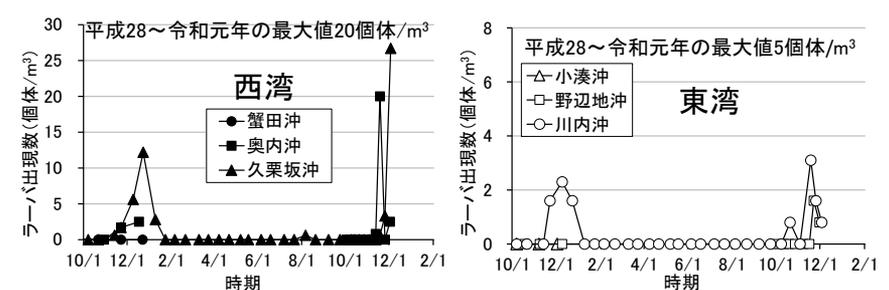


図4 マボヤラーバ出現数の推移 (令和元年10月~令和2年12月)

